

★夏に氣をつきたい子どもの感染症

夏かぜ（咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナ）は夏期に流行する感染症です。6月ごろから乳幼児を中心に増え始め、7～8月ごろにピークとなります。

●咽頭結膜熱（プール熱）★症状が消えてから2日過ぎるまで出席停止

症状⇒39～40℃の高熱、のどの痛み、目の症状（目やに、充血、眼痛など）。その他、リンパ節が腫れることがあるが、症状は1週間程度でおさまる。まれに重症肺炎を合併することがある。
感染のしかた⇒プールでの感染があることから、プール熱ともよばれる。せきやくしゃみを介して、また便を介しての感染もある。乳幼児、学童に多い。

潜伏期間⇒5～7日



●手足口病 ★全身状態が安定するまで出席停止

症状⇒手のひら・足の裏などに米粒大の水ぶくれを含む発しん、口の中に口内炎ができます。ほかに38℃以下の発熱や食欲不振、のどの痛みなどが見られるが、一般に軽症で、3～7日でおさまる。
重症化はまれだが、合併症として急性脳炎や心筋炎がある。

感染のしかた⇒咳やくしゃみなどによる飛沫感染。経口・接触感染。

潜伏期間⇒3～6日

●ヘルパンギーナ ★全身状態が安定するまで出席停止

症状⇒38℃以上の突然の発熱の後、のどの奥に水ぶくれが吹き、水ぶくれが破れて痛みも伴う。その後2～4日で解熱し、7日程度で治る。
合併症としては、熱に伴う熱性けいれんとまれに髄膜炎や心筋炎が生じることがある。

感染のしかた⇒咳やくしゃみによる飛沫感染。経口・接触感染。

潜伏期間⇒3～6日

●溶連菌感染症

症状⇒上気道感染では発熱、咽頭痛、咽頭扁桃の腫れや化膿、前頸部のリンパ節炎。猩紅熱は5～10歳ごろに多く、発熱、咽頭炎、扁桃炎とともに舌が莓状に赤く腫れ、全身に鮮紅色の発疹が出て、治まった後にはがれ落ちる。治療が不十分な場合は、リウマチ熱を併発しやすい。腎炎は発症数週間後に血尿で見つかることが多い。

感染のしかた⇒くしゃみや咳を介して感染する。

潜伏期間⇒2～5日

★適切な抗菌薬の治療開始後24時間を経て全身状態がよくなるまで出席停止

●流行性角結膜炎（はやり目）

症状⇒結膜充血、まぶたの腫脹、異物感、流涙、めやに、耳前リンパ節腫脹などがみられる。合併症により視力障害を残す可能性がある。

感染のしかた⇒接触感染。プールの水、手指、タオルなどを介して感染する。

潜伏期間⇒2～14日

★医師より感染の恐れがないと認められるまで出席停止

●伝染性膿痂疹（とびひ）

かきむしったところの滲出液、水疱内容などで次々にうつります。

プールの水ではうつりませんが、本人の症状を悪化させたり、触れることでほかの人にうつしたりする恐れがありますので、プールには治るまで入れません。



★予防法は？

- ・手洗い・うがいをしっかりしましょう。
- ・タオルの共用をせず、洗濯物は日光でよく乾かしましょう。
- ・プールの後はシャワーできれいに洗いましょう。
- ・タオル、ヘアブラシ、水泳帽などの貸し借りはやめましょう。

